

【NEWS RELEASE】

2021年5月11日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

グループ統一の会計システム導入による経理業務改革について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、以下、当社グループを総称して「SMBC グループ」）は、グループ統一の会計システムを導入することにより、経理業務の標準化・集約を通じた業務効率化、中期経営計画に掲げるグループ経営基盤の強化を図ります。

1. 取組概要

多様化するお客さまのニーズに対して、SMBC グループが一丸となって、質の高いトータルソリューションを提供するためには、グループワイドな経営管理の枠組の強化が必要です。また、金融を取り巻く厳しい環境が続く中、成長領域に十分な経営資源を配分しつつも、コストコントロールへの取組は手綱を緩めることなく継続することが重要です。

こうした環境を踏まえ、SMBC グループでは、各社毎に異なる会計システム及び業務プロセスをグループベースで統一・集約することで、シナジー効果の創出、生産性の向上及びグループ経営の一層の高度化を実現し、ひいてはグループ全体の企業価値向上に繋げてまいります。

本取組の具体的な狙いは以下4点です。

- グループベースで会計データを標準化し、採算管理・コストコントロール等を強化することによる最適な資源配分の実現
- 標準化した経理業務をシェアードサービスセンターに集約することによる間接業務コストの削減
- グループベースで会計システムを統一することによる IT ガバナンスの強化と IT コストの抑制
- 業務プロセスのペーパーレス化によるリモートワークの促進を始めとしたワークスタイルの変革

なお、統一する会計システムには、世界的に広く利用実績のある、日本オラクル株式会社（執行役社長：三澤 智光）の「Oracle Fusion Cloud ERP」を採用し、標準機能を最大限に生かすことで開発コストを抑えつつ、円滑な導入を目指します。

経理業務の標準化・集約を通じた業務効率化とグループ経営基盤の強化を実現



2. 今後の展開

中期経営計画における将来に向けた成長投資の位置づけとして本取組に着手し、2023 年度からグループ会社へ段階的に導入いたします。

本取組を契機にグループ一体運営を更に加速させ、業務・IT のトランスフォーメーションを実現し、グループ経営基盤の強化や、グループ従業員のワークスタイルの変革、エンゲージメントの向上を推進いたします。

* Oracle、Java 及び MySQL は、Oracle Corporation、その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

以 上